

# 福島第一原子力発電所事故後の電力会社職員、医療保健福祉専門家のメンタルヘルスに関する 研究のお知らせ

災害救援者は、救援業務を通じて惨状・遺体・遺族などに関わり、強度のストレス（惨事ストレス）を体験します。その結果、PTSD（posttraumatic stress disorder: 心的外傷後ストレス障害）、うつ病、アルコール依存症など様々な精神障害を生じます。精神障害が発症する割合は10～20%で、一般被災者の5～10%と比べて高い傾向にあることが知られています。また、精神変調は災害直後から生じるだけでなく、月～年単位で遅延して発症しうることも報告されています。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災後は、様々な救援者が業務にあっているが、惨事ストレスによるメンタルヘルスへの大きな影響が予想されます。なかでも、東京電力（株）福島第一原子力発電所（以下、第一原発）は地震・津波・爆発事故による甚大な被害を受けました。この復旧作業にあたる第一原発および東京電力（株）第二原子力発電所（以下、第二原発）職員は、惨事ストレスに加えて、自らの被災、被曝への危険、原発事故に対する社会的非難などが更なるストレスとして重畳しています。今後数十年と続く復旧活動の進捗にあたっては、作業従事者の心身の健康が不可欠です。また、それを支える医療保健福祉の専門家にも同様の健康が求められます。

我々は、これまでの研究「福島第一・第二原子力発電所職員のメンタルヘルス対策に関する研究」（愛媛大学、防衛医科大学校倫理委員会承認済）で、震災時に第一・第二原発に所属していた者を対象に研究調査を実施してきました。これまで、2011年5～6月、2012年5～6月、2013年11月に調査を実施してまいりました。

このデータの解析ならびに今後の公表にあたっては、全体集計結果のみが記され、個人が特定されない形となります。しかし、本研究への使用の拒否の意思を表明されても、いかなる意味においても不利益をこうむることはありません。回答後も、もし御自身のデータを研究に使わないでほしい、という御希望があれば以下連絡先までご連絡をくださいますようお願い致します。

## 【問い合わせ先】

防衛医科大学校 精神科学講座 講師  
重村 淳  
〒359-8513 埼玉県所沢市並木 3-2  
電話：04-2995-1211  
メールアドレス：shige@ndmc.ac.jp